

事項	大豆のマメシクイガ多発圃場では合成ピレスロイド剤を8月第5半旬及びその7日後に散布するのが有効である																												
ねらい	大豆の本作化・団地化に伴い多発しているマメシクイガについて、多発圃場では従来の防除法では被害を抑えきれない事例があった。そこで、効果の高い薬剤と有効な散布時期を検討したところ、合成ピレスロイド剤を従来より早い8月第5半旬に1回とその7日後に2回目を散布すると効果が高く、被害を低く抑えることがわかったので参考に供する。																												
指導参考内容	<p>1 防除効果の高い合成ピレスロイド剤</p> <table border="1" data-bbox="338 593 1414 775"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>成分量</th> <th>希釈倍数</th> <th>散布量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">効果の高い薬剤</td> <td>パーマチオン水和剤</td> <td>フェンバレート 10%、MEP 30%</td> <td>1,000倍</td> <td rowspan="4">150~180<sup>g</sup>/10a</td> </tr> <tr> <td>アグロスリン乳剤</td> <td>シペルメトリン 6%</td> <td>2,000倍</td> </tr> <tr> <td>アディオオン乳剤</td> <td rowspan="2">ベルメトリン 20%</td> <td>3,000倍</td> </tr> <tr> <td>アディオオン乳剤（無人ヘリ散布）</td> <td>24倍</td> <td>0.8<sup>g</sup>/10a</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">効果のやや高い薬剤</td> <td>トレボンMC</td> <td rowspan="2">エトフェンプロックス 20%</td> <td>1,000倍</td> <td>150~180<sup>g</sup>/10a</td> </tr> <tr> <td>トレボンスカイMC（無人ヘリ散布）</td> <td>8倍</td> <td>0.8<sup>g</sup>/10a</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 多発圃場での効果的な防除法 中晩生種の大豆では、上記いずれかの合成ピレスロイド剤を8月第5半旬に1回目、その7日後に2回目を散布する。</p>			薬剤名	成分量	希釈倍数	散布量	効果の高い薬剤	パーマチオン水和剤	フェンバレート 10%、MEP 30%	1,000倍	150~180 <sup>g</sup> /10a	アグロスリン乳剤	シペルメトリン 6%	2,000倍	アディオオン乳剤	ベルメトリン 20%	3,000倍	アディオオン乳剤（無人ヘリ散布）	24倍	0.8 <sup>g</sup> /10a	効果のやや高い薬剤	トレボンMC	エトフェンプロックス 20%	1,000倍	150~180 <sup>g</sup> /10a	トレボンスカイMC（無人ヘリ散布）	8倍	0.8 <sup>g</sup> /10a
薬剤名	成分量	希釈倍数	散布量																										
効果の高い薬剤	パーマチオン水和剤	フェンバレート 10%、MEP 30%	1,000倍	150~180 <sup>g</sup> /10a																									
	アグロスリン乳剤	シペルメトリン 6%	2,000倍																										
	アディオオン乳剤	ベルメトリン 20%	3,000倍																										
	アディオオン乳剤（無人ヘリ散布）		24倍		0.8 <sup>g</sup> /10a																								
効果のやや高い薬剤	トレボンMC	エトフェンプロックス 20%	1,000倍	150~180 <sup>g</sup> /10a																									
	トレボンスカイMC（無人ヘリ散布）		8倍	0.8 <sup>g</sup> /10a																									
期待される効果	大豆のマメシクイガによる子実被害を抑えることができ、大豆の高品質・安定生産に寄与する。																												
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成20年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(<a href="http://www.maff.go.jp/nouyak">http://www.maff.go.jp/nouyak</a> u/)を確認すること。</p>																												
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 (木村勇司)	対象地域	県下全域																										
発表文献等	平成16~19年度青森県農林総合研究センター試験成績概要集																												

【根拠となった主要な試験結果】

表1 各種合成ピレスロイド剤の防除効果 (平成19年 青森農林総研)

供試薬剤	希釈倍数 散布量	調査 粒数	被害 粒数	被害 粒率(%)	防除価	葉害
パーマチオン水和剤 フェンバレード 10%、MEP 30%	1,000倍 150%/10a	1077.5	3.5	0.3	98.4	なし
アグロリン乳剤 シベルメトリン 6%	2,000倍 150%/10a	1286.5	10.5	0.8	96.0	なし
アディオ乳剤 ベルメトリン 20%	3,000倍 150%/10a	1382.7	24.3	1.8	90.7	なし
トレボンMC エトフェプロックス 20%	1,000倍 150%/10a	1226.0	66.5	5.5	71.2	なし
無処理区		1116.3	218.3	19.0		

(注) 試験圃場：つがる市木造現地圃場、品種：おおすず、播種：6月8日、露地栽培、栽植密度：うね幅0.65m×株間0.19m  
面積区制：35㎡(3.9×9m)、2～3区制、発生状況：多発生  
処理時期：8月29日に所定濃度の供試薬剤を背負い式動力噴霧器で10a当たり1500量を散布  
調査：10月10日に各区20茎を収穫し、乾燥後に被害粒率を調査。葉害は肉眼で観察した。

表2 各種合成ピレスロイド剤の無人ヘリコプター散布による防除効果 (平成18年 青森農林総研)

供試薬剤	希釈倍数 散布量	調査 粒数	被害 粒数	被害 粒率(%)	防除価	葉害
アディオ乳剤 ベルメトリン 20%	24倍 0.8%/10a	1716.7	5.0	0.3	98.4	なし
トレボンスカイMC エトフェプロックス 20%	8倍 0.8%/10a	1552.3	34.0	2.2	87.8	なし
無処理		1306.7	240.7	18.3		

(注) 試験圃場：つがる市木造現地圃場、品種：おおすず、播種：6月5日、露地栽培、栽植密度：うね幅0.65m×株間0.19m  
面積区制：薬剤処理区は各14.1a(15×94m)、無処理区は9.4a(10×94m)、1区制、発生状況：多発生  
処理時期：8月25日及び9月1日に所定濃度の供試薬剤を無人ヘリコプター(ヤマハR-MAX)で10a当たり0.80量を散布  
調査：10月4日に各区3か所各20茎を収穫し、乾燥後に被害粒率を調査。葉害は肉眼で観察した。

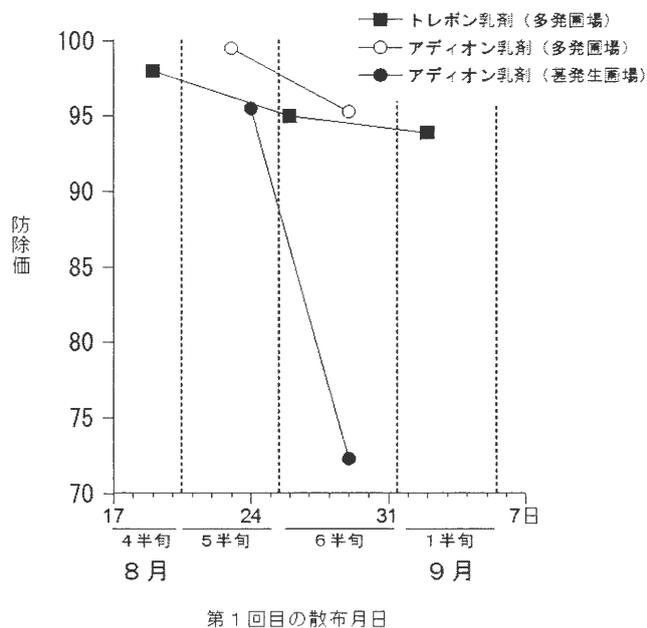


図1 多発生圃場における合成ピレスロイド剤2回散布の散布開始時期と防除効果 (平成16、19年 青森農林総研)

(注) 試験圃場：多発圃場：つがる市木造現地 (H16, 19)、品種：おおすず、播種：6月上旬、露地栽培、栽植密度：うね幅0.65m×株間0.19m  
多発生圃場：畑作園芸試験場16号圃場(H19)、品種：おおすず、播種：5月17日、露地栽培、栽植密度：うね幅0.68m×株間0.1m  
供試薬剤：トレボン乳剤1,000倍(H16, 木造圃場)、アディオ乳剤3,000倍(H19, 木造圃場、畑園圃場)、150～1800/10a量を6～11日間隔で2回散布  
調査：10月上旬に各区20茎を収穫し、乾燥後に被害粒率を調査。